

2026年度／2025年度事業案内

川崎いのちの電話

優しさと善意の輪が拡がり続けますように

いのちの電話の歴史は、1950年代にイギリスで始まった自殺防止のための電話相談「サマリタンズ(Samaritans)」に遡ります。サマリタンズの名称の由来は、キリスト教の聖書に登場する「善きサマリア人」で、隣人愛を言い表すのに今もよく使われる言葉です。日本ではドイツ人宣教師ルツ・ヘッドキャンプ女史が中心となって「サマリタンズ」と同じようなボランティア電話相談を作るべく、1971年に東京でいのちの電話が始まりました。設立には多くの日本人クリスチャンが協力しました。キリスト教の隣人愛や博愛の精神がいのちの電話の原点になっているわけですが、しかし、それはキリスト教だけに限定されるものではありません。優しさや善意とも言え換え得るその精神は、人類に普遍のものだと私は考えています。その証拠に、その後、宗教に関係なくいのちの電話の輪が広がり、今では全国50か所にいのちの電話が設立されています。

川崎いのちの電話は1986年12月に開局しましたので、今年12月に40周年を迎えます。開局以来、数多くの善良な市民、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、川崎商工会議所などのボランティア団体、そして歴代川崎市長、行政当局者のご支援をいただきながら、365日24時間体制でボランティアで電話相談を続けています。相談員は1年半の研修を経て認定され、その後も研修を重ね、善き傾聴者になれるよう努力を続けています。自殺を考えるほど追い詰められたり、落ち込んだりしている人は、自殺を決意した時でも「助かれるものなら助かりたい」という気持ちが残っているとされています。そういう人たちが一縷の望みを託してかけてくれる電話に相談員は応えます。それはとても大変な活動です。相談員の優しさと善意に支えられています。同時に、その活動を通して、相談員は人間的成長を得ることができます。今、全国的に相談員のなり手不足が大きな課題になっています。少しでも多くの人にいのちの電話を知っていただき、関心を寄せていただきたいと思います。優しさと善意の輪が広がり続けますように、皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人 川崎いのちの電話

理事長 張 賢徳

2026年度事業(活動)計画

自殺者数は、2010年からは減少傾向で推移し、2025年の自殺者数は19,188人と2万人を割ったが、一方で小中高生の自殺者数は538人で過去最多となった。

川崎いのちの電話は本年12月に開局40周年を迎える。創設時の想いを振り返りつつ、生きづらさを抱える方たちの支えとなるために今後も活動を続けていく。

- 一人でも多くの方の電話に対応するために相談員の増員を図る。
- 今年度から相談員養成研修の一部を更新した新研修を開始、研修生一人一人へのより丁寧な研修によって相談員の養成・育成に努める。
- 相談員への各種の研修を充実させて、電話相談の更なる向上を目指していく。(毎月の継続研修、全体研修、スキルアップ研修、リフレッシュ研修、アドバンス研修、特別研修など)
- 行政組織やいのちの電話連盟、他センターをはじめ、多方面に支援の輪を広げ連携や協力を呼びかける。また、広報誌や各種イベント活動を通じて、いのちの電話活動の認知を広めるべく努力する。

2025年度事業報告

2025年度は張賢徳新理事長を迎え、電話相談活動のさらなる充実、向上を目指して活動してきた。2025年1月から12月までの1年間の総受信数は13,253件となり、昨年より459件増加した。コロナ禍により大幅に減少した受信数は年々増加している。通常の電話相談に加えて、毎月10日の24時間フリーダイヤルに参加、毎日フリーダイヤル(毎日16時から21時)にも毎月8回(2月は7回)参加した。

○評議員会

第1回評議員会(2025年6月11日) 第2回評議員会(2026年3月24日)

○理事会

第1回理事会(2025年5月19日) 第2回理事会(2025年6月16日) 第3回理事会(2026年3月4日)

○運営会議

2カ月に1回・奇数月に開催。理事長、研修担当者会、相談員委員会、事業推進委員会(企画部、広報部、製作部)、財務委員会、インターネット相談委員会の代表、事務局長で構成。全体に関わる問題・課題のほか、各部門の活動報告、活動予定を受けて、連絡調整を行った。

○相談員委員会

毎月1回(7月、9月、12月を除く)開催。相談員で構成する15の継続研修グループの代表で構成。電話相談活動の問題・課題を話し合った。また相談員のケアや負担軽減のための検討も重ねている。

○研修担当者会

初期研修部、継続研修部、担当者研修部の3つの部と、特別研修委員会、読取りワーキンググループで構成。

- 相談員養成研修を実施、今年度は5名が40期電話相談員として認定された。
- 電話相談の質をさらに高めるため、毎月1回の継続グループ研修、年1回の義務スーパービジョン研修、希望者によるアドバンス研修を実施。
- 2026年2月に3回の公開講座を開催、3回の講座でのべ205名が受講。各回終了後に相談員募集の説明会を実施。
- 対応困難事例への関わり方と相談員ケアをテーマに、2025年9月6日に相談員全体研修を実施。
- 研修担当者養成のための特別研修を実施し、3名が研修担当者として認定された。
- 講師の派遣 川崎市社会福祉協議会「ゲートキーパー講座」(2025年11月6日)を実施。
- 研修担当者全体会、部長会、役員会の開催。
- 研修担当者の資質向上のため、外部講師を招いての研修や4回のグループスーパービジョン研修を実施。

○財務委員会

活動資金として大きな比重を占める寄付金の増額策を検討し、実行に移している。これまでの寄付活動についてはライオンズクラブの貢献が大きいが、広く一般市民にも「いのちの電話」の認知を広め、寄付を増やす方策を検討している。新委員長を迎え、3回の財務委員会を開催した。

- いのちの電話の活動周知のため「第46回川崎市民まつり」に出店し、相談員応募を呼び掛けた。パルーンアートを実演して来場者に進呈した。

○企画部

チャリティーイベントを実施して川崎いのちの電話の財政面を支援。収益は川崎いのちの電話の活動費として活用。

- 柳家三三独演会 2025年6月1日 エポックなかはらホールで開催。
- トリオ・リベルタコンサート 2025年12月26日、エポックなかはらホールで開催。チケットは完売した。

○広報部

- 広報誌「川崎いのちの電話」を年3回発行(延べ12,600部)。
- 114号(2025年7月1日発行)特集「子どもの被害のためのワンストップセンターを増やしたい」飛田桂(認定NPO法人子ども支援センターつなぐ代表理事)、清水瞳(事務局) ・115号(2025年11月1日発行)特集「人とのつながりから自分らしく生きられる社会づくりへ」星野慎二(特定非営利活動法人SHIP代表) ・116号(2026年3月1日発行)特集「悩む門にも福来たる」張賢徳(川崎いのちの電話理事長)

○製作部、新ゆり製作部

チャリティーコンサートや落語会のほか外部の催しで手作り品を販売した。内部でも販売コーナーを設けている。収益は川崎いのちの電話の活動費として活用。

○インターネット相談委員会

前年度までの「みんなのネット相談」から2025年4月より連盟の新連盟方式のネット相談に合流し、11名のメンバーで年間121件のメール返信を行った。また4回の全体会、継続研修を行い、返信技量の維持向上を図った。

○自死遺族ほっとライン

2012年4月から川崎市からの委託を受けて電話相談(自死遺族ほっとライン)を開始。毎月第2・4木曜日の12時から16時まで相談を受けている。相談者の6割が女性、年代別では40代が多かった。2026年1月24日に連盟主催のオンライン研修会「悲しみ、苦しむ人の傍らで寄り添うために～自死遺族の悲嘆の特徴から」(講師:吉久小夜子氏)に参加。また、3月21日に川崎市と共催で研修会「グリーフケア、支援者としての姿勢、セルフケア」(講師:グリーフケアあかり)を実施した。

○こころの健康セミナー

2010年度から川崎市との共催で実施。自殺やメンタルヘルスなどに関連した知識の普及や市民の理解促進が目的。2025年度は9月28日にエポックなかはら大会議室で開催した。第1部は「お酒と健康の両立を目指して」をテーマに久里浜医療センターの瀧村剛先生の講演と参加者との意見交換。第2部は「運動による体のメンテナンス」をテーマに(株)ルネサンスのスタッフによる簡単な運動を交えた講演を行った。

2025年川崎いのちの電話の相談及び全国の自殺の状況

1. 2025年の相談電話件数は13,253件

2025年(1～12月)の相談電話件数は13,253件で、前年比459件増となった。1日当たりの平均相談件数は36.3件。

掛け手の性別による受信件数と自殺志向率は右の表のとおり。

内容別では、「人生(生き方、孤独、死別など)」が最多で3071件(23.2%)、次いで「精神(こころの病気など)」が1789件(13.5%)、「家族」1746件が(13.2%)、となっている。

自殺志向のある相談の割合は全体の7.9%(前年比0.3㊦増)。男性が6.4%(同増減なし)、女性が9.3%(同0.7㊦増)で、男女ともは横ばいである。性別が「その他」の掛け手は受信数が全体の0.5%(本年の実数69件)なので傾向が不安定だが、自殺志向率は2.9%だった(前年比2.9㊦減)。

年代・性別の自殺志向は、30代女性が17.4%と最も高く、次いで20代女性が14.3%、40代女性が10.4%である。性別が「その他」は受信件数が少ないため比較から除いた。

内容別の自殺志向は高い順に、「精神」が14.8%、「経済」が13.5%、「人生」が11.8%だった。

年間総受信数と自殺志向率

区分	受信件数	自殺志向率
男性	6,288	6.4%
女性	6,896	9.3%
その他	69	2.9%
計	13,253	7.9%

相談件数の多い内容

区分	件数
1 人生	3,071
2 精神	1,789
3 家族	1,746

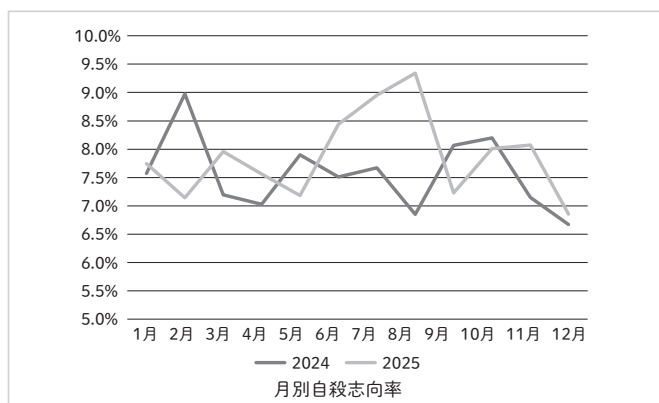
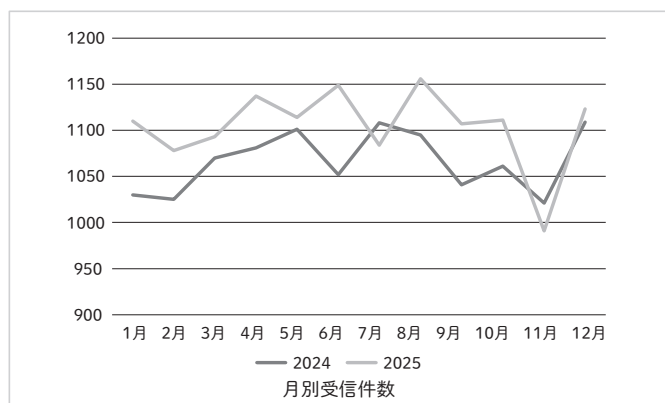
自殺志向の高い年代性別

区分	自殺志向率
1 30代女性	17.4%
2 20代女性	14.3%
3 40代女性	10.4%

2. 月別受信件数と自殺志向率の推移

受信件数については、前年に少なかった6月が多かった。

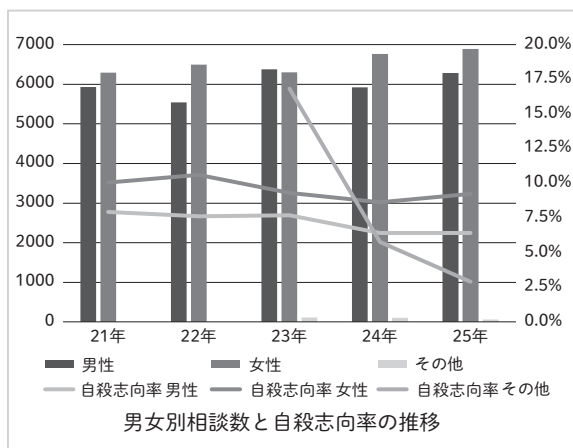
自殺志向率では、前年に高かった2月が低く、低かった8月が高かった。



3. 男女別相談数と自殺志向率の推移(2021年～2025年)

掛け手の男女別の比率は、男性47.4%、女性52.0%で、女性がやや多かった。その他の割合は0.5%だった。自殺志向率で女性が男性より高い傾向が続いている。男女別の自殺志向率に大きな変化は認められない。性別が「その他」の自殺志向率は受信数が少ないので変動が大きい。

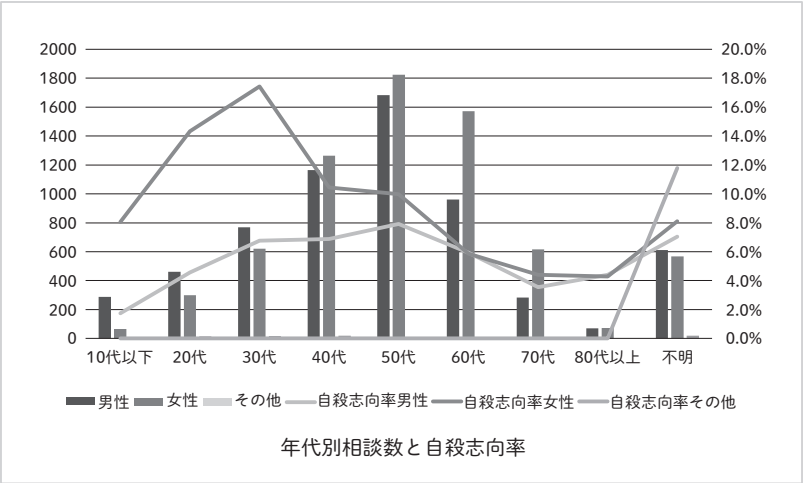
全国	区分	21年	22年	23年	24年	25年
	男性	255,638	264,847	273,451	276,357	276,807
	女性	270,643	279,368	281,568	297,039	287,104
	その他			2,933	3,111	2,345
	計	526,281	544,215	557,952	576,507	565,986
川崎	区分	21年	22年	23年	24年	25年
	男性	5,932	5,540	6,378	5,923	6,288
	女性	6,296	6,497	6,300	6,767	6,896
	その他			113	104	69
	計	12,228	12,037	12,791	12,794	13,253
	自殺志向率 男性	7.9%	7.6%	7.7%	6.4%	6.4%
	自殺志向率 女性	10.1%	10.6%	9.3%	8.6%	9.3%
	自殺志向率 計	9.0%	9.2%	8.6%	7.6%	7.9%



4. 年代別相談数と自殺志向率

全体で、相談数は50代が最多で60代、40代と続く。自殺志向率は30代が一番高く、50代、40代と続く。

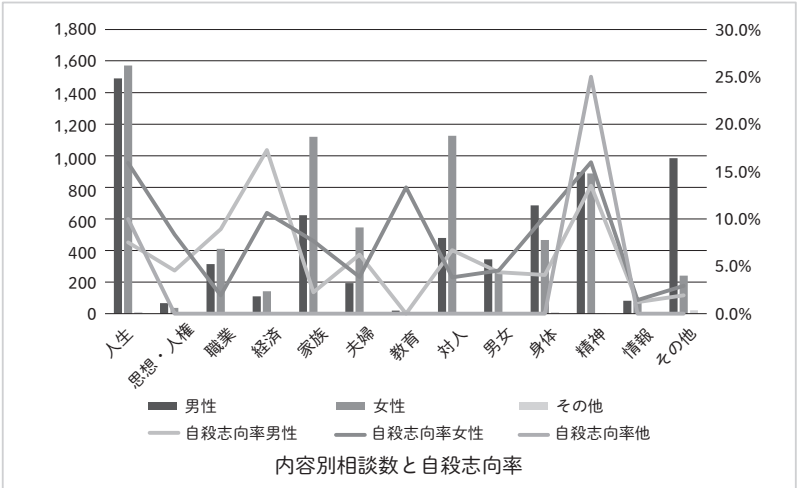
性別の自殺志向率は、男性では50代が高く、40代、30代と続く。女性では、30代が高く、20代、40代と続く。その他で自殺傾向があるとされたのは、年代が「不明」とされた2件だけだった。



5. 内容別相談数と自殺志向率

相談件数の最多は「人生」で、「精神」、「家族」と続き、上位3つの内容は昨年と同じである。

自殺志向の割合で最も高いのは「精神」で、「経済」、「人生」と続き、この順位は昨年と同じである。



6. 全国の自殺は19,188人で初めて2万人を下回り減少傾向。小中高生は538人で1980年以降最多。

2025年の全国の自殺者は19,188人(前年比-1132人(-5.6%)減)で漸減である。男女別では、男性が13,176人(同-625人)、女性が6012人(同-507人)で、いずれも昨年同様に漸減傾向である。男性の自殺者数は女性の約2.2倍で、この比率は2021年頃からほぼ同じである。

年代別では、50代が3743人(19.5%)で最も多く、次いで40代2968人(15.5%)、20代2412人(12.6%)が多い。昨年2番目に多かった70代は5番目になった。ほとんどの性別年代で自殺者数は減少しており、減少率が最も大きいのは70代で14.0%、次いで80代以上の7.9%である。ただし、いずれも男性で19歳以下、20代及び50代は増加しており、19歳以下の男性自殺者数は全体の2.1%ではあるが前年比で8.4%(31人)増加している。

なお、自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)では、過去10年間50代が最も高い。2020年まで2番目の高さだった80代が、2021年以降は3番目以下になっている。また、2019年まで20歳以上で最少だった20代は2020年以降は4番目以上で、2025年は50代に次いで2番目の高さである。

■川崎市は210人

川崎市は210人で前年からわずかに減っている。男女別では男性130人、女性80人。男性は女性の1.6倍で昨年とほぼ同じである。自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)は13.68で昨年から大きな変化はない。

川崎市自殺者数推移 (単位：人。自殺死亡率は単位なし)					
区分	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年
男性	106	133	149	128	130
女性	63	74	64	85	80
計	169	207	213	213	210
自殺死亡率	10.97	13.43	13.98	13.93	13.68

(厚生労働省、川崎市データによる)

法人役員

<役員>

評議員

市川 功一	渡辺 恭子
松原 成文	渡邊 直美
北條 秀衛	石田 真一
西村恭仁子	塙 まゆみ
堂本 典子	鈴木 剛

理事長

張 賢徳

理事

井田 光政	山本 直正
鈴木 清	松久 順子
深瀬 正子	
藤 真知子	(業務執行理事 事務局長)

監事

増山 雅久

顧問

金子 圭賢	安達 成功
有田 茂	廣川 聖子

2026年7月現在

山田 眞三

2025年度決算

貸借対照表

2026年3月31日現在

単位：円

資産の部	
科 目	金 額
流動資産	30,972,453
現金預金	30,664,232
事業未収金	268,140
前払費用	40,081
固定資産	107,064,927
基本財産	100,000,000
土地	22,000,000
基本財産特定預金	20,000,000
建物	42,630,000
減価償却累計額(建物)	△ 15,370,000
減価償却積立預金	15,370,000
その他固定資産	7,064,927
資産の部合計	138,037,380

負債の部	
科 目	金 額
流動負債	85,648
事業未払金	0
預り金	85,648
負債の部合計	85,648

純資産の部	
科 目	金 額
基本金	100,000,000
国庫補助金等特別積立金	29,041,037
その他積立金	0
次期繰越活動増減差額	8,910,695
(うち当期活動増減差額)	1,505,806
純資産の部合計	137,951,732

負債及び純資産の部合計	138,037,380
-------------	-------------

資金収支計算書

自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日

単位：円

		科 目	決 算
事業活動 による収支	収 入	相談事業収入	9,185,700
		経常経費寄附金収入	6,023,318
		事業推進部収入	5,873,637
		受取利息配当金収入	73,504
		その他の収入	0
	事業活動収入計 (1)		21,156,159
	支 出	人件費支出	8,017,791
		事業費支出	5,973,106
		事務費支出	4,210,815
	事業活動支出計 (2)		18,201,712
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)		2,954,447	
施設整備等 による収支	収入計 (4)	施設整備等補助金収入	181,500
	支出計 (5)	固定資産取得支出	242,000
	施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)		△ 60,500
その他の活動 による収支	収入計 (7)	—	0
	支出計 (8)	減価償却積立預金積立支出	1,160,000
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)		△ 1,160,000
予備費支出 (10)		—	
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)			1,733,947
前期末支払資金残高 (12)			29,152,858
当期末支払資金残高 (11) + (12)			30,886,805

2026年度予算

単位：円

事業活動計算書

自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日

単位：円

収益の部	
科 目	金 額
相談事業	9,185,700
育成事業	585,000
受託事業	2,142,600
その他事業	6,458,100
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	850,000
共同募金配分金	418,500
経常経費寄付金	6,023,318
経常経費寄付金	3,606,318
会員会費	2,417,000
賛助会費	2,087,000
維持会費	330,000
事業推進部	5,873,637
企画部	5,399,392
製作部	474,245
収益合計 (1)	21,082,655

費用の部	
科 目	金 額
人件費	8,017,791
事業費	5,973,106
企画部費	2,439,247
製作部費	150,835
委員会費	613,385
広報費	363,759
研修研究費	36,210
教育指導費	1,605,575
その他	764,095
事務費	4,210,815
旅費交通費	119,380
事務消耗品	667,026
印刷製本費	179,915
水道光熱費	622,538
通信運搬費	742,564
業務委託費	660,000
手数料	475,234
その他	744,158
減価償却費	2,407,996
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 959,355
費用合計 (2)	19,650,353

サービス活動増減差額 (1) - (2)	1,432,302
----------------------	-----------

収入の部	
科 目	金 額
相談事業	10,189,600
育成事業	1,830,000
受託事業	2,100,000
その他事業	6,259,600
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	850,000
共同募金配分金	220,000
経常経費寄付金	5,600,000
経常経費寄付金	2,800,000
会員会費	2,800,000
賛助会費	2,500,000
維持会費	300,000
事業推進部	6,070,000
企画部	5,170,000
製作部	900,000
その他	80,000
合計	21,939,600

支出の部	
科 目	金 額
人件費	8,000,000
事業費	6,800,000
企画部	2,450,000
製作部	150,000
委員会費	740,000
広報費	590,000
研修研究費	250,000
教育指導費	2,200,000
その他	420,000
事務費	3,825,000
旅費交通費	70,000
事務消耗品	300,000
印刷製本費	100,000
水道光熱費	600,000
通信運搬費	700,000
業務委託費	660,000
手数料	450,000
その他	945,000
減価償却費	1,160,000
施設整備費	469,000
合計	20,254,000

寄付感謝

2025年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

《個人》

山田美和子	小出 慶一	金井 勉	小島 良子	山岡 道夫	吉田美佐子	早崎 悦子	関 聖一	小林美年子
小林 晃一	羽倉のり子	田崎 美波	伊藤 初美	梶田みどり	倉片 孝行	近藤百合江	瀧野 修	松本 久子
武田 信平	近藤八千代	尾根 恒	川上久美子	榎山 勝雄	千田 智子	片山世紀雄	粟澤由利子	富田美津子
鈴木 剛	安田 享二	高橋 真弓	平島 親	吉田 久弘	山田 長満	田玉由希子	松岡 信子	安藤 健雄
関口 晴雄	三國 祥子	村上カズコ	金子 顕	梶川 明美	伊佐 良夫	石坂 博持	河合 眞	栗井 清
山本 苑子	北條 秀衛	米山 信二	手塚 豊子	平井 智子	佐々木陽子	山本 直正	齊藤加奈子	平 菜々子
松村 栄子	山田美千代	山口 恒太	森瀬 大蔵	深瀬 正子	市川 功一	棚部 哲男	矢田部光江	高橋 勉
浅田 美子	大石 眞理	碓井 俊昭	太幡世記子	大川 幸男	岡本由利子	大塚ふみ子	井田 光政	広島 晴美
中川 隆	松尾 信子	高村 真	福本 真秀	松久 敏雄	石井 秋雄	田中 康夫	渡邊 直美	奥 秀子
鈴木 早苗	秦 ひろみ	余湖はれみ	森山 定雄	木澤 静雄	島崎 祥子	阿部 孝夫	高梨 齊	菅沼 雪絵
中村 範一	西田 克彦	松島 太郎	山本 剛	鈴木 恵子	西谷由美子	増田 洋子	朝山 昌子	森 光子
久保田洋子	亀岡 大造	坂尾 宜徳	鈴木 清	漆原 敦子	碓井 正之	藤野 竹子	白濱 綾子	白石 弘巳
生田目 勝	大和田あつ子	弥永えりか	藤原 茂美	石田 真一	小松 終子	佐藤 誠	齊木 貴	石原 敏光
渡邊 新治	澤 洋子	酒井 礼子	安達 成功	塩島えり子	坂本 忠弘	大澤 陽子	木崎 光子	小林 直人
西村 治人	金子 圭賢	村田 紀子	高木 弘美	櫻井 貴裕	久保美矢子	匿名希望20名		

《法人・団体》

YOKOHAMA BELL ライオンズクラブ	(株)由貴工務店	(株)アップ総合企画	(株)太平商事
(株)アドバンストホーム	高津区鎮座白髭神社	山本賀也設計室	堂本製菓(株)
四葉GC	(株)多摩設計	ケイ・アイ商事(株)	国際ソロプチミスト川崎
サンエイ建設(株)	(有)リアルエステート・ツクダ	ジェクト(株)	オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会
朝日生命保険(相)	東京恩寵教会執事会	日本キリスト教団向河原教会	(一社)川崎市弘済会
日本キリスト教団川崎教会教会学校	日本キリスト教団溝ノ口教会	おくせ医院	(学)桐光学園
(社)生命保険協会神奈川県協会	日本キリスト教団新丸子教会	日本キリスト教団元住吉教会	(学)捜真女学校
カリタス学園同窓会	(宗)潮音寺	石原工業(株)	リサイクル募金きしゃぼん
ライオンズクラブ国際協会330-B地区(糖尿病・四献・いのちの電話委員会/4R/賀詞交歓会募金箱/年次大会募金箱/セミナー募金箱)			
チャリティーイベント募金箱	古本募金箱	募金箱	共同購入

■財政支援にご協力をおねがいします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約2000万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員	年額	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円
(2)法人・団体会員	年額	10万円	5万円	3万円	1万円	

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先 (1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
(2)他銀行からの振り込み 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座
口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

古本等のリサイクル募金(きしゃぼん)やスマホ・パソコンなどによるクレジットカードでの寄付(Syncable等)もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121 平日10時~17時)

「2026年度/2025年度事業案内」を発行しました。

1年間の活動報告と、これから1年間の計画、予算の概要などを紹介しています。

社会福祉法人 川崎いのちの電話

〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号

電話 044-722-7121 FAX 044-722-7122

ホームページ <https://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

発行日 2026年(令和8年)8月 発行人 張 賢徳

